

アメリカザリガニ規制

環境省は、ペットとして人気がある外来種のアメリカザリガニとアカミミガメ(ミドリガメ)を外来生物法による規制対象とする検討に入った。飼育を禁じられた飼いが一斉に水辺などに捨てるといった弊害を防ぐ新たな仕組みなどについて法改正を視野に議論。特にアメリカザリガニは強い繁殖力で生態系に悪影響を及ぼす本丸と目されるだけに、関係者からは「いよいよ着手の時」との期待が強い。実効性は未知数だ。「いくら捕獲しても減らない。本当に手ごわい相手だ」。7月中旬、昼下がりの東京都立井の頭恩賜公園。ボディースーツに身を包んだボランティア数人が、額の汗を拭いながらアメリカザリガニの駆除に追われた。

強い繁殖力

本来の目的は生態系の再生。都と協力し園内の池に仕掛けたわなは150ほどで、

「本丸」着手に期待の声



アメリカザリガニを捕獲するボランティア。東京都立井の頭恩賜公園(認定NPO法人「生態工房」提供)

ペット普及で効力未知数

用ウシガエルの餌として米国から持ち込まれた。繁殖力が強く、一度に産む卵の数は200個以上。はさみで水草を切つて在来種のすみかを奪うほか、在来の甲殻類に感染症をうつす恐れも報告される。ミドリガメも海外から輸入された。アメリカザリガニと同じく雑食性で丈夫な点を受けて学校教材やペットとして流通したが、飼いきれずに捨てられたり、逃げたりして各地に生息地を広げる。

弊害抑える

環境省の専門家会議は8月、アメリカザリガニとミドリガメについて、飼育を禁じられた飼いが大量に捨てるといった弊害をできるだけ抑える形で、新たな規制の仕組みをつくる必要があるなど提言。ただ、釣った個体を一度持ち帰った後に同じ場所に戻す場合など、具体的な事例への対応については専門家で意見が分かれる。

過去5年間で5万匹以上を駆除した。一時姿を消した水生植物が復活するなど効果が見られるものの、担当者は「すぐに成長し、少しの手も緩めず」環境省によると、アメリカザリガニは1920年代に食

庭も多い。「吉田観魚八王子本店」(東京)では1匹350円で販売。子どもが飼う生き物として人気で、規制のせられるのは大きな検討課題だ」と語った。